

寅さん歩 その22

東京2020 聖火リレー7

～熊本県・長崎県～



写真右上は東京2020オリンピックの聖火リレーのトーチを掲げる平野寅次郎こと平野武宏です。全国のウォーキング大会を映画「男はつらいよ」の寅さんのように歩き回ったので妻の友人から「平野寅次郎」と命名され、ペンネームとしています。写真は都庁でのトーチ公開時に撮影しました。パラリンピックのトーチも色違いであります。

東京2020大会の聖火は2020年3月26日に福島県をスタートし、移動日を含む121日をかけて47都道府県を回り、7月24日の開会式会場に到着します。

なお、2019年11月30日に完成した「新国立競技場」は2019年12月15日の竣工式を終え、「国立競技場」と呼ばれます。

寅次郎、八柳修之さん作成の「バーチャルウォークで沖縄から新国立競技場へ聖火を運ぶ（仮想コース）」を行い、通過した都道府県の寅次郎のウォークの思い出と映画「男はつらいよ」で寅さんの恋の記録をお話ししました。

映画「男はつらいよ」は第1作の公開[1969年(昭和44年)8月27日]から50周年となり、記念して2019年(令和元年)12月27日に第50作「男はつらいよ お帰り寅さん」が公開されました。寅さん役の渥美清さんは1996年(平成8年)に亡くなっていますが、今までの作品の寅さんが技術を駆使して登場とのこと。

「寅さん歩」も映画の50周年を祝って一足早く全国の聖火リレーのコースを紹介しながら、前回のバーチャルウォークで通過しなかった道県での寅次郎のウォークの思い出と寅さんの恋をお話したいと思います。各県名の脇の月日は実際に聖火リレーが行われる月日で、コースはスタートとゴールの予定地です。なお、2019年12月17日聖火リレーの詳細が発表されました。

〔熊本県〕 2020年5月6日～7日

聖火リレーコースは5月6日 人吉市～八代市、7日 益城町～熊本市です。

寅次郎、2005年(平成17年)11月開催の「九州スリーデーマーチ2005」で

八代市にきています。この大会は八代市と隣に誕生した氷川町による記念大会です。前日はF W A例会に参加し、前泊が出来ず朝一番の飛行機で熊本經由八代に到着、1日目の晩白柚（ばんぺいゆ）コースの10kmを遅れてスタート。実った晩白柚（写真右）や雄大な球磨川を見た後、コースを間違え、山に上り水無川の上流まで行ってしまいました。脇道を歩き、本道に書かれた矢印を見落とししたのが原因です。



コースに戻り、九州三大祭りの妙見祭りで亀蛇（ガメ）が駆け回る妙見宮（八代神社）や西南戦争の激戦地を歩きました。20Kmとの合流点で10 Km アンカーに追いつきゴール。八代は豊表のイ草の全国一の生産地。ゴール会場では八代の観光と物産展が同時開催されていました。

2日目は緑の回廊コース。コースの脇には柿が鈴なり、民家の軒先に干されていて渋柿の様子。八百屋でも5kg 300円で売られていました。八代城跡公園からハーモニーホールへ。ここでは地元が生んだ八代亜紀さんの絵画展が同時開催されていました。八代亜紀さんは毎年この大会に駆けつけるそうで、幸運にもお会いできました。手をにぎられ「頑張って歩いてね！」と優しく声を掛けられた寅次郎「はい！」と返事。白くつきたてのお餅のようなふっくらとした手の感触に大感激です。展示の作品もフランスの展覧会で賞を頂いた絵だそうで見事なものでした。それまでの八代亜紀のイメージを変える出会いでした。その後、ゴール会場では大型トラックを舞台に、八代亜紀さんがトーク&ミニライブで新曲「不知火情話」を披露していました。もちろん会場を埋め尽くした観衆の中にカメラを持った寅次郎の姿もありました。

3日目は万葉の郷コース。豊葦原神社（通称 拝遥神社と呼ばれ用水取り入れ 拝遥堰の守り神）、日本書紀にも登場の水島のある球磨川河口の干潟で多くの鳥を観察できました。歩いたかなりの部分が干拓地とのこと。給水ポイントでは珍しい「白いさつまいも」をご馳走になりました。八代亜紀さんとの出会い、歩友マドンナとの再会、小学校時代の女性の同級生のお友達に声を掛けられたこと等女性との出会いが多かった火の国 晩秋八代路のウォークでした。

映画の寅さん、1973年(昭和48年)12月公開の第12作「男はつらいよ 私の寅さん」でさくら夫妻と満男も含めた「とらや一家」が旅行で阿蘇・熊本を訪れています。前日に柴又に帰って来た寅さん、皆、素直に話さないとすねますが、結局は留守番役でいつもと違う展開です。寅さんは毎日さくらからの電話を待ち、おばちゃんも寅さんの夢を見て、とらや一家は3泊4日を1日繰り

上げて柴又に帰ります。長い旅から帰る時のもてなしや、家族のありがたさを体験した寅さんは、反省し、神妙になります。寅さんの恋は柴又が舞台で小学校時代の幼馴染の妹で画家の柳りつ子（岸恵子）への片想いです。寅さん、りつ子の絵にいたずらをして、勝気のりつ子と喧嘩をしますが、惹かれて行きます。りつ子は「寅さんとは良い友達でいたいわ」と言い、寅さんは「惚れてなんかいない。渡世人の辛い所よ」と別れます。ラストシーンはお正月に阿蘇で虎の絵を売る寅さんです。阪神タイガースが優勝した年でもありました。



1978年(昭和53年)8月公開の第21作「男はつらいよ 寅次郎わが道をゆく」で阿蘇・田の原温泉にきています。とらやの跡取り構想を話し、おいちゃんと大げんかした寅さん、現在の山都町で阿蘇大観峰や日本初のアーチ型水道橋の通潤橋に現れます。南小国町の田の原温泉の宿に宿泊、失恋した青年に「女にふられたら、男は黙ってじっと耐え、背中を向けて去る」と失恋の指導。先生と呼ばれますが、宿代が払えず、さくらが引取りに。反省した寅さん、しばらくおとなしく、とらやを手伝いお見合いの話が来ますが、さくらの同級生のS K Dの奈々子（木の実ナナ）に一目ぼれ、上京した失恋青年とS K D通い。奈々子には好きな人がいて結婚か踊りを続けるか悩み、引退を決意。寅さん「俺ならば踊りはやめさせない」と呟きます。失恋青年は踊り子にも失恋、田の原に帰り、三度目の失恋時に寅さんと再会。寅さんから「お前は結婚に向いていない。諦めろ」と言われます。寅さんの青年への言葉に笑いと重みがあります。華やかなS K Dのレビューと踊り子達の舞台裏の姿が存分に見られる作品です。



1985年(昭和60年)8月公開の第35作「男はつらいよ 寅次郎恋愛塾」のラストシーンで天草に現れ、商売をしています。第35作は聖火リレー7 長崎県をご参照ください。

聖火は長崎県へ引き継がれます。

〔長崎県〕 2020年5月8日～9日

聖火リレーコースは5月8日 南島原市～長崎市で途中、壱岐市、新上五島町も通過します。9日 長与町～佐世保市で対馬市も通過します。

寅次郎、2005年（平成17年）10月「第12回島原半島ツーデーマーチ」に参加で島原に来ています。前日は雲仙地獄めぐり及び妙見岳ロープウェイで昇り、普賢岳（1359m）と噴火で出来、いまだ白煙を上げて
いる平成新山（1483m）（写真右）を目の当たりにしました。またキリシタン関係史料や彫刻家北村西望記念館のある島原城を観光するツアーに参加しました。



大会1日目は島原ステージ。島原アリーナをスタート・ゴールの「普賢岳・復興の足跡 20Km コース」を選択。深江町の火砕流や土石流の到達地点を歩き、当時の爪痕が残る痛々しい山肌を見て15年前の噴火災害の大きさを思い知りました。この大会は島原が立ち直る姿を全国に伝えようと始まったそうです。復興は着々と進み、すでに災害に強い町として生まれ変わっていました。コース沿いの島原の城下町では武家屋敷が保存され、下級武士の庶民的な生活が偲ばれました。地下水を引き入れ錦鯉が泳ぐ湧水が町の中を流れていました。ゴールではサービスの手延べそばを美味しくいただきました。ゴール後はバスで島原半島を横切り、橘湾沿いの小浜温泉に移動、斎藤茂吉がこよなく愛した夕日の景観を露天風呂から楽しみ、夜は漁火を見ながら眠りにつきました。

2日目は小浜ステージの10 Km コースで橘湾を見ながら歩き、ゴール後はホテルの温泉でゆっくり汗を流しました。橘湾とは日露戦争の軍神 橘少佐の出身地なので名付けられたそうです。小浜町は山に雲仙温泉（イオウ泉）と海に小浜温泉（食塩泉）を合わせ持つ全国的に稀な町で、大会11日前の10月11日に合併で雲仙市になりました。ユニークな大会で前年から正式に愛犬の大会参加を受け付け、「愛犬とお散歩ふれあい5 Km コース」で2日間44匹の参加と発表。ちなみに参加費は2日分で大人2000円、中高生1000円、小学生以下500円、愛犬500円とのこと。愛犬の参加費はどう決めたのか悩んだ寅次郎です。

寅次郎、佐世保及び長崎も歩いています。「ひろば」の平成21年（2009年）3月 寅次郎の旅（佐世保編）及び平成23年（2011年）12月 続寅次郎の旅（長崎編）をご参照ください。

映画の寅さん、長崎県とはご縁があり、6作品で訪れています。

1971年(昭和46年)1月公開の第6作「男はつらいよ 純情編」で夫と別れた親子連れを五島の家まで送っています。寅さん歩「バーチャルウォークで聖火を新国立競技場へ-14」をご参照ください。

1977年(昭和52年)12月公開の第20作「男はつらいよ 寅次郎頑張れ！」で平戸に登場します。平戸から上京した青年は寅さんの部屋に下宿、帰ってきた寅さんを押し売りとは勘違いしひと騒動。でも青年はパチンコ屋で寅さんと仲直り。青年と近くの食堂の幸子の仲を取り持とうと寅さん、恋のコーチ役です。得意げに語る寅さん流デートでのハウツーは絶品。でもその通りには出来ず、青年は故郷に帰ってしまいます。心配して平戸を訪ねた寅さん、青年の出戻りの姉 藤子(藤村志保)に一目ぼれ。藤子のお土産店を手伝います。日曜日は教会にまで付き添う始末。幸子の気持ちが誤解と分かった青年は上京となりますが、藤子と寅さんの二人で留守番かと妄想する寅さん。しかし寅さん一人の留守番となります。柴又が気になります、帰る旅費が足りず、飲まず食わずで、柴又に帰る寅さんです。青年が藤子に寅さんへの気持ちを聞く会話を物陰で聞いた寅さん、「正月は商売だ！」と旅に出て寅さんの恋は幕です。



1981年(昭和56年)12月公開の第27作「男はつらいよ 浪花の恋の寅次郎」で結婚して対馬に行ったマドンナ ふみ(松坂慶子)を訪ねます。寅さん歩「バーチャルウォークで聖火を新国立競技場へ-12」をご参照ください。

1985年(昭和60年)8月公開の第35作「男はつらいよ 寅次郎恋愛塾」で上五島に現れています。寅さんと仲間のポンシュウは転んだおばあさんを助け、家まで連れて行きます。1人暮らしのおばあさんと楽しく夜を過ごしますがおばあさんは亡くなり、最期を見とります。カトリック信者のおばあさんの葬儀は教会で行われ、東京から孫娘 若菜(樋口可南子)が駆けつけます。柴又に戻り、薄幸の若菜に同情した寅さん、礼状の住所のアパートを訪ね面倒を見ます。アパートの別室には若菜に恋をした司法試験を目指す青年がいて、寅さん複雑な気持ちで恋のコーチ役になります。



寅さん流デートを教わり、最後で酔ってしまった青年に寅さん、「お前は恋をする資格がない！死んでしまえ！」と怒ります。青年、絶望して故郷の秋田の鹿角に戻り、自殺を企てますが、これも失敗。助け出されます。若菜もカトリック信者なので改宗まで考えた寅さんの葛藤が切なくもありますが、笑いを誘って楽しい作品です。長崎の教会のシーンが沢山あります。寅さん、最後のシーンでも上五島の教会を訪ねています。

1988年(昭和63年)12月公開の第40作「男はつらいよ 寅次郎サラダ記念日」のラストシーンでは島原城で商売をしています。

この作品は寅さん歩「東京2020 聖火リレー2 長野県」をご参照ください。

1994年(平成6年)12月公開の第47作「男はつらいよ 拝啓 車寅次郎様」のラストシーンで雲仙市のバス停に現れています。

この作品は寅さん歩「バーチャルウォークで聖火を新国立競技場へー13」をご参照ください。

聖火は佐賀県へ引き継がれます。

平野 寅次郎 拝